

教育目標(めざす児童生徒像)	今年度の指導の重点
「知・徳・体の調和のとれた人間性豊かで実践力のある児童の育成」 ○考える子 ○思いやる子 ○やりぬく子	1. 自ら主体的に学び、基礎基本の定着と活用力の向上を図る。 2. 特別支援教育の充実を図る。 3. 命や人権を大切にすることも育成し、心豊かな人間性を育む。 4. 家庭や地域社会との連携を密にし、安全安心で開かれた学校づくりに努める。

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)

<p>【学力状況調査の結果】 全国(小学校) ・算数Aについては、県平均よりも正答率は高く、国語A・算数Bについては、県平均と同じである。 ・国語Bについては、県平均と比べると正答率は低い。 ・国語の「読むこと」の領域では、例年課題であった、物語の場面や心情を読み取り自分の考えを記述したりすることはできている。(理由を明確にして自分の考えをまとめる:本校47.8% 県43.7%)しかし、目的や意図を捉えて資料を選んだり文の構成を考えたりする力に課題がある。 ・算数Aでの「数と計算」領域では、ほぼ県平均より高い。(6+0.5×2の混合式の小数の計算:本校73.9% 県66.6%)(5÷9の商を分数で表す:本校82.6% 県77.0%)しかし、「数量関係」の資料の整理では、2次元表の理解に課題があった。</p> <p>県(小学校【3~5年】) 国語 ・2年(本校独自テスト)、3年、4年では、言語についての知識、理解、技能が県平均より下回った。特に、低学年での言語力に課題がある。 ・5年生では、言語については県平均より高いが、「書くこと」「読むこと」等の活用力に課題があった。 算数 ・3年生4年生では、図形については県平均よりやや下回るが、それ以外では、県平均と同じかやや上回る結果であった。 ・5年生については、4年生での学習内容の未定着がどの領域にもあり、県平均を下回っている。これは、前年度までにも見られた傾向で</p>	<p>【学習状況調査の結果】 ○家庭での平日の学習時間(1時間以上)の割合は、県平均より高い。しかし、土日の家庭での学習時間は、県平均より低い。 ○家庭学習を全くしない児童はいない。 ○学校の宿題や復習をしている割合は県平均よりやや高いが、「予習をしている」「自分で計画を立てて学習している」割合は低い。 ○読書が好きな児童や平日の読書時間の割合は県平均より高い。 ○平日にテレビの視聴、ゲーム、インターネットを2時間以上する児童の割合は、県平均より低くなった。 ○「あいさつ」の項目については、5年生の調査では、していると解答した割合は県平均より高いが、学校全体としてはまだ不十分である。 ○「自分にはよいところがある」と思っている児童の割合は、県平均より低い。 ○「学級みんなでやり遂げてうれしかったことがある」児童の割合は、県平均より高い。 ○学級会や授業の話合い活動で、「自分の考えをしっかりと伝えた」「話の組み立てを工夫して発表していた」と回答する児童の割合は、県平均より低い。</p>
--	--

成果

○算数は、ABともに、県平均と同じかやや高いところまで好転した。全校での朝学習、算数の授業時間の上乗せ(10時間)、4年生以上の補充学習等で、理解の弱い内容を繰り返し学習することで、基礎基本が定着してきている。
 ○毎日の授業での「めあて」から「ふりかえり」までのながれ(授業ファイル)の定着や、学習環境を整えるためのルールを校内で統一して取り組んだことで、基礎学力や自分で考えて書く力が伸びてきている。
 ○全校で「読書100冊」を近年継続して進めていることで、落ち着いた読書を楽しむ児童が増え、課題となっている文章の読み取りの力も少しずつ伸びてきている。

課題

○低学年での算数、国語の基礎基本の定着が弱い。足し算、引き算、ひらがな、カタカナ、音読、漢字の習熟をはかることが課題である。
 ○4年生の算数、特に、分数、面積、角、概数などの学習内容の理解と定着をはかる。
 ○「書くこと」の領域では、目的や必要に応じて、または、条件にあわせて文を書く力が弱い。(2段落構成で文を書く。2つの言葉を使って○に伝える文を書く。等)
 ○調査の中で「解答時間が十分なかった」とする児童の割合が高い。
 ○長い文章問題では、無回答率が高い。設問の内容がきちんと把握できるように文章を読み取る力をつけることが、算数でも国語でも

何を(改善すべきこと)	いつまでに(成果検証の期限)	どこまで(対象と達成目標の設定)	どのように(方策)	達成状況(12月末現在)	達成度	達成状況(年度末)	達成度	次年度への改善点・重点課題
言語の力、文章の読解力を高める取り組みをする。	年度末まで	全国学テで国語Bでも正答率を県平均にする。(他の学年も2%以上伸ばす。)	・朝学習で、週1回ずつ全校共通の副教材を利用しながら、言語活動と読解の学習に取り組む。 ・読書100冊以上を目指して、学年に応じた読書時間の確保と、意欲喚起をする。	・チェックテストの結果(6年生)では、国語Aでは、全国平均との差が6ポイントほど広がっているが、では6.6ある。 ・全校的に読書への意欲は大きく、100冊以上は、12月時点で48名(17%)200冊以上も14名いる。	B	・3月まで読書への意欲は全校的にあり、64名(23%)の児童が100冊以上を読んだ。200冊以上も、23名いる。 ・朝学習等の中で、各学年、「言葉のきまり」と「読解力」を高める副教材に年間2冊ずつ取り組んだ。	B	・語彙力を高めること、読解力をつけることを目指して、全校で副教材を利用しての朝学習は継続していく。 ・読書を始める取組も継続し、「読む」力を伸ばす。
学力調査の結果より、理解や定着の弱い内容の補強、習熟をはかる。(1~6年算数上乗せ10時間での補充学習、4~6年金曜日6校時の補充学習の充実。特に、1年生の国語・算数、4年生の算数の学習内容の定着。)	年度末まで	全国、県の学力テストで、正答率を県平均と同等、または、それ以上にする。(3~6年) 2年生も、本校独自の学力テストで、算数、国語ともに正答率全国平均に近づける。(6%伸ばす)	・2年生では、算数・国語ともに基礎基本の反復練習教材、問題データベースを利用し、朝学習や授業の中で復習に取り組む。 ・全学年10時間の算数時間上乗せ補充時間では、問題データベースを利用し、その学年での学習内容の習熟をはかる。 ・4~6年の補充学習では、各学年、習熟度別に3グループに分け、問題データベースを活用して基礎から発展まで、実態に合わせた学力補充をする。	・2年生では、基本的内容の反復練習を継続して取り組んでおり、少しずつではあるが力をつけている。 ・算数補充学習は、計画的な取組を進めている。 ・秋チェックテストの結果を数値化し、各学年担任で「ほんている内容」を分析して、補充学習や宿題で課題解決に取り組んでいる。	B	・2年生では、九九暗唱テストを高学年児童や校長が協力で行い、全員合格するまで取り組んだ。 ・全校での算数授業上乗せの補充学習、4年以上の金曜日6校時の補充学習は、計画通り実施できた。 ・「宿題を毎日きちんと出すことができた」という児童は93%であった。自主学習も定着できており、落ち着いた家庭学習に取り組める児童が増えた。	B	・算数の授業時数10時間の上乗せ、金曜日6校時の補充学習「佐良山タイム」は継続して取組、学力調査等で明らかにできる弱い部分を補強していく。 ・学力調査、秋チェックテストが有効に活用できるよう、年間の補充学習計画をたて、PDCAサイクルで取り組めるようにする。 ・県学力調査に合わせて、2年生算数、3年生国語の学力調査も独自で行い、低学年での実態をつかみ、取組に生かす。 ・宿題100%提出を目指すとともに、自主学習を推奨する取組を続ける。
伝え合いをテーマとする校内研究を通して、対話により自分の考えを広げたり深めたりできるよう授業改善に取り組む。(自分の考えをまとめて、言葉で表現する力を伸ばす。)	2学期末年度末	「授業の中で自分の考えをしっかりと伝えた」という児童を80%にする。	・授業研究を中心とする校内研究を進める。授業公開をして、課題設定、発問の工夫、授業構成等、研究を進める。 ・学級会などで話し合い活動や、教科学習の中でのペア・グループ学習を積極的に取り入れ、「聴いて伝える」場を設定する。	・校内での授業研究に加えて、外部講師を招いての授業研究を2回実施し、対話により考えを深められる学習を進めていく。	B	・ペア・グループ学習を授業の中で活用するよう全学級で取り組んだ。 ・授業の中に学び合いの場を作る「取組」の達成率は73%であった。 ・「学習中、自分の考えを伝えるよう頑張った」という児童は、81%であった。	B	・来年度の研究では、「よりよい対話の工夫」を副主題に設定し、学びを深めることのできる授業を目指す。 ・学習、学級活動や縦割り班活動、委員会等、学校教育全体の中で、自分の考えをまとめて、言葉で表現できる力をのばしていく。 ・「自分の考えをもち、わかりやすく伝えよう」を、児童の学習のめあての1つにし、1年間働きかけをしていく。

※達成度 「S:目標を大きく上回った(100%超)」 「A:目標を十分達成できた(85%以上100%未満)」 「B:目標を概ね達成できた(70%以上85%未満)」 「C:目標をある程度達成できた(50%以上70%未満)」 「D:目標をあまり達成できなかった(30%以上50%未満)」 「E:目標を達成できなかった(30%未満)」

小中連携の取組

○チャイムスタート、落ち着いた学習できる教室環境づくり等、共通目標にして取り組む。
 ○家庭学習100%提出を目標に、家庭学習習慣の定着を目指す。
 ○ペア・グループ学習を取り入れ、「見る」「聴く」「話す」「伝え合う」ことで学び合う授業を目指す。
 ○中学校ブロック合同全員研修会で、児童の実態や課題の共通理解、指導方法の交流をはかる。
 ○小中間で授業公開とともに、児童生徒の情報交換を行う。

保護者・地域へ理解・協力を求めること

○家庭学習のスタンダードを基に、学級懇話や個人懇話で家庭の理解と協力を求める。
 ○ホームページの取り組みへの協力を依頼するとともに、併せて家庭学習時間調査を行い、学年×10+10分の家庭学習時間が習慣づくよう協力してもらう。
 ○読み聞かせや社会、理科、総合や生活科など、講師として専門性を生かした指導をしてもらうことで、児童の学習への意欲や興味関心を高めていく。